

⑧層のレキは、よく中流の川原に見られるようなまるといレキで、10~15cmの大ききで水平方向に並んでいます。

④層と⑧層は斜めに交わってつもっています。どうしてこのようなつもり方になったのか話し合ってみよう。

④層と⑧層とでつもった時代がたいへんはなれています。④層は新第三紀のはじめ頃のたい積層で、その後の変動で陸化し、氷河期の頃に段丘たい積物として、⑧層が④層の上につもったものです。

2. 川原のようすと流水のはたらき

(1) 調べる場所

夏井川と真似井川の合流点より

200 m 下流。

(2) 川原の全体の様子を観察する。

①土堤の上から川の流れや、川原の様子をスケッチする。

② 川が大きく曲がっている所では

川原は流れの内側にできているか、外側にできているか。もう少し上流で、同じように曲がっている所でも観察する。

③ 学校の近くを流れる夏井川は、下流に近く、川幅も100 mを越え、川の流れはたいへんゆっくりしています。

④ 川原には、レキは見られず、粗い砂からできています。下流の川原には、どうしてレキがないのだろうか。

⑤ 川原から対岸に向って、深さはどう変わっているか。川原の近くで調べてみる。

